



## これからの福井の英語教育への期待

福井県英語研究会会長  
竹本 俊穂

会員の皆様、日頃より本研究会の活動について格別のご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

本研究会は、本県の英語教育の推進と研究活動の促進を目的に、昭和34年（1959年）に発足し、65年という歴史と伝統を有しています。発足以来変わることなく、中高の緊密な連携を基盤に、「コミュニケーションの手段としての英語」の指導実践を推進しております。今年度も、放送テストやリーディングテスト、英語ディベートなどの委員会活動や、英作文コンテストや英語弁論大会などの各種コンテストを計画どおりに実施することができました。作成いただいた放送テストやリーディングテストは県内の多くの中高生に活用され、英語コミュニケーション能力育成の一環として大いに役立てられています。また、参加させていただいた高校英語弁論大会や高校生即興型英語ディベート大会では、両大会ともに多数の参加者を得て、日頃の学習や練習の成果を発揮しようと真剣に取り組んでいる生徒たちの様子や、大会を熱心に運営される先生方、生徒たちを見守り励ます先生方のお姿が印象に残りました。関係会員の皆様の深いご理解と献身的なご協力に対して心より感謝を申し上げます。

さて、今年度の県英語教育研究大会は、「自分の考えや気持ちを伝え合い深め合う生徒の育成～言語活動を軸とした単元・授業デザインの工夫～」を大会テーマに、11月1日に福井市光陽中学校で行われました。公開授業では、オールイングリッシュの授業に精通された中島佑介先生が、生徒が英語を使う活動を多く取り入れ、**teacher talk** を交えながら、生徒の意見や考えを引き出しておられました。一方、生徒たちも持っている英語力をフル活用し、自分の考えや気持ちを伝えようと必死に頑張る姿がありました。

当日は、公開授業の後に、金沢学院大学教授 上田外史彦先生の講演を拝聴しました。上田先生は本県の英語教員として中学校で長く教鞭をとられ、本英語研究会でもご活躍されました。今回の講演では、「これからの英語教育を展望する」と題して、対応すべき課題に直面した時の人のごく自然で正しい動き方（現状把握→解決すべき課題の洗い出し→解決の順番・手段の決定→実践→振り返り・修正）をベースに、ご自身の経験をふまえながら英語授業を改善するための方策についてお話しされました。先生によれば、「現状把握や課題の洗い出しを間違えることは少ない。最も大切なのは、解決の順番・手段の決定であり、そのセンスが成否を決定する。そのセンスのバックボーンとなっているのが英語教師の信念（どのような英語教師になりたいか、どのような英語授業がしたいか）である。」とのこと。その解決の順番・手段で先生が犯しがちだったミスとして、「1から10まで全部教えなきゃ！」「ここでやり切らなければ！無責任になる！」「目的」と「手段」のはき違え」「キーワードに瞞される」「自由」



を間違えて解釈」を紹介されました。また、先生が心がけたことは「生徒が英語を使う時間をとにかく増やす」ことであり、そのために、練習や解説時間を減らしたり、活動の順番を逆にしたり同時にしたりして、コミュニケーションを中心に据えた英語授業を工夫しながら実践されました。これらの事例は私たち英語教師がそれぞれの信念を考える上で非常に貴重な示唆を与えてくれる参考にするべき内容であります。講演の最後に先生は、「世の中の急激な変化（翻訳ソフト・生成 AI の存在や多様化し拡大する格差、教室で学ぶ意義や英語教師の存在意義）に加え、働き方改革や深刻な教師不足の時代に対応した英語教育が今、全国で求められている。しかし、福井には全国に誇れる英語研究会や先生方が築き上げてきた「コミュニケーションを中心に据えた英語授業」があり、間違いなくアドバンテージがある。今こそ「福井の英語」の継承を」と先生方への期待を述べられました。私は、これからの英語教育を展望しての熱い激励と受け止めました。

現代はグローバル化が進展し、ICT とりわけ生成人工知能 (AI) の急速な発達、スマートフォンの進化、タブレットを活用した授業展開、言語活動を通してコミュニケーション能力の育成を図る小中高一貫した英語教育など、英語教育を取り巻く環境が大きく変わりました。しかしながら、科学技術がどんなに進展しても外国語学習が楽になるわけではなく、生徒たちは単語や例文をたくさん覚える作業から逃げることはできません。英語教師の果たす役割が重要であることにも変わりありません。会員の皆様が、自己研鑽に励まれ、学校や校種の垣根を越えて協力しあうことにより、本県の英語教育に新たな展望が開けることを大いに期待しています。

最後になりましたが、本研究会が本県の小中高生の英語力の向上ならびに英語教員の資質・向上にこれまで以上に資することができますよう、ご理解とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。巻頭言といたします。